

# 正月を迎える心持ち

―長沢家文書「せち買物帳」―

江戸時代の桐生新町は、毎月3と7の日に市が立つ「六斎市」でにぎわっていました。その中でもやはり、正月を間近に控えた12月の市のにぎわいは、年の改めに合わせて新調する衣類や生活用品を買い求める人の波で、格別のものであったようです。

残りの丁（ページ）があれば、新たに覚えなどを書き継いでいくことが普通です。しかしながら、この買物帳では、覚えを書き留めた後ろに十分な枚数の丁があるにもかかわらず、何も書き継がずに白紙のままになっています。

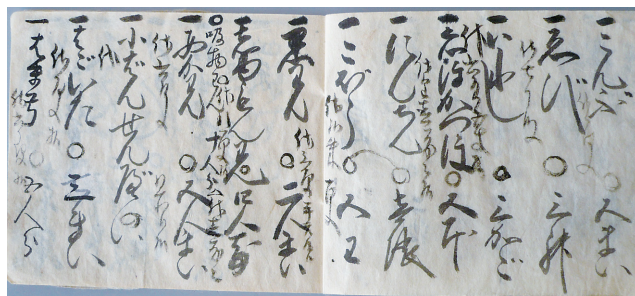
これは新年という「ハレ」の日を迎える準備のものを記した帳簿ゆえに、他の覚えや控えを書き継いでいくことをはばかったものと考えられます。そのような視点から帳簿に書かれた品名の並びに注目すると、面白いことに「神のち」、「神のぜん」（神の鉢、神の膳）と、まずはじめに神への捧げものを盛る食器が書かれています。

そして、これに続くのは、初春の門前を飾る門松用の「松しらき」（松の白木）と、新調した井草の香りにめでたさを感じる「うす遍り」（薄縁）、次いで「柿」（干し柿）、「榎子」（カヤの実）といった正月に贈る縁起物が続きます。

江戸時代の覚えや控えを記した帳簿は、一つの事案が書き終わったとき、まだ帳簿に

先に記した正月の食料品名が書き連ねられるのは、これらの品々の後になるのですが、まずは神に捧げる器をあげて、次に松をはじめとしためでたさの象徴、そして正月の縁起担ぎの品々と書き出しているところに、「今年一年、無事年越しを迎えられたことへの感謝と、迎える新しき年もまた変わらぬに穏やかな日々であるように」といった思いが込められているのです。

▼「長沢家文書 せち買物帳」展示  
期間 12月1日（金）～28日（木）※月曜日、23日（祝）は休館です。  
場所 図書館1階



「せち買物帳」（長沢家文書）こんぶ、えび、にんじん、ごぼうなど今と変わらぬ正月用の食材の名前が並び

## 今月の表紙

11月5日（日）に、群馬大学工学部桐生キャンパスを会場として、第12回クラシックカーフェスティバルが行われ、大いににぎわいました。来場者は、会場内に展示された名車を眺め、ラリーの出発を見送りました。

## 人口と世帯

(10月31日現在)  
人口 114,053人 ( -60人)  
男 54,941人 ( -22人)  
女 59,112人 ( -38人)  
世帯 50,019世帯 (+16世帯)  
( )内は前月比

## 今月の納税

固定資産税・都市計画税…第4期  
国民健康保険税…第6期

12月25日（月）が納期限です。  
コンビニエンスストアや銀行などのペイジー対応ATMからも納付可能です。口座振替を利用している人は、預貯金残高のご確認をお願いします。

広告